

消の推進を更に進めるとともに、農作物の加工・販売についての学習を推進、教育行政以外の関係機関等との連携を図ります。

郷土資料・文化財関係については、札幌学院大学との地域協定を基に、埋蔵文化財の発掘実習に加え、勝山地区との地域交流や札幌学院大学の考古学以外での活動の広まりを更に進めるよう大学との協議を進めます。

社会体育

体育協会については、今年度設立50周年を迎えることから記念事業の支援をいたします。

子どもの体力づくりを推進するため、おけとわんぱくクラブや少年スポーツ教室の開催、スポーツ少年団活動への支援、さらに小学校との連携を強め、体力と運動機能の向上を図ります。

高齢者や町民の健康保持、ならびに健康志向の高まりに応え、軽スポーツや健康体操教室を引き続き充実させます。

開町100周年記念事業として、サイクル駅伝大会およびウルトラパークゴルフ大会を位置付け、100周年を大会参加者とともに祝い、大会を充実させます。

施設改修では、昨年に続き置戸水泳プールの改修と、町営テニスコートの環境整備を行います。

森林工芸館

作り手養成塾は、3年ぶりに3名の塾生を受け入れられます。今年度からは指導体制を見直し、時松辰夫氏を名誉塾長として迎え、主な技術指導は町内の作り手が担うほか、デザインや経営等については、それぞれ町内外の専門分野の方を講師として招聘し進めます。

今まで流通販売部門を担ってきたオケクラフト流通普及協会は、新たに「一般社団法人おけと森林文化振興協会」として生まれ変わり、オケクラフトをはじめ手仕事製品などの流通販売を引き継ぎさらなる発展に努めます。

どま工房では、秋岡陽氏を名誉館長に迎え2年目

となりますが、秋岡コレクションの継続的な活用事業と手仕事文化の情報発信に努めます。また、長年愛用されてきた秋岡芳夫氏デザインの「男の椅子」「女の椅子」の座面布の傷みが激しくなっていることから、布の張替え修繕を実施します。

生涯学習情報センター

本年4月、生涯学習情報センターから置戸町立図書館として新たな第一歩を踏み出します。第3期生涯学習情報センター運営3カ年計画は最終年であり、計画をそのまま引き継ぎ地域図書館としての機能をより高め、町民に愛される「本のあるみんなの広場」としての新たな図書館づくりを進めます。また、本年は開館10周年を迎えることから、記念講演を開催します。



生涯学習情報センターから「置戸町立図書館」へ

昨年から置戸町開町100年にあわせ、委員会を立ち上げ編集作業を進めてまいりました「置戸町100年の歴史と証言集」を発刊いたします。

学校給食

栄養教諭を核に子どもたちが望ましい食習慣など、食に関する理解を深められるよう取り組むとともに、家庭の味の大切さやもったいない意識など学校での取り組みを通じて家庭・地域へ情報発信を行っていきます。

子どもたちへの食物アレルギー対応に万全を期すとともに、調理備品の点検をはじめとした施設設備の衛生管理、調理関係職員の日頃からの健康管理の徹底など、安全対策に努めます。

地元の野菜や山菜、手作りの食材を積極的に取り入れ、季節や行事に配慮し、地域の特色を活かした給食の提供を行うなど、安心な給食の提供に努めます。